

数学的な見方・考え方を働かせて問題を解決する児童の育成

【内容】 おおきさくらべ（1年生）

【使用アプリ】 ロイロノート

【事例紹介】

具体物を実際に操作しながら、大きさを比べる活動を通して比べ方を見出そうとする態度を養うことをねらいとして授業を行った。その際、ロイロノートを利用し、動画を撮影したり、結果をスライド上に示したりすると、主体的に問題を解決することができ、理解も深まるのではないかと考え、指導を工夫した。

【指導の手順】

① 「直接比較」

様々な入れ物に同じ量の色水を入れ、目で観察してかさ比べをする。目で見ただけでは、意見が一致しないことを確かめた。

② 「間接比較」

そこで、他の入れ物の「なんばい分」かを使って調べようとする。ただ、意図的に入れ物の大きさ（かさ）を変えておき、それらを使って確かめた。なんばい分かは測れたが、やはり意見が一致しないことをクラスのみんなで共有することができた。



③ 「共通の単位の発見」

なんばい分で数値化したか、それには同じ大きさで同じ入れ物（共通の単位）で測る必要があることを確かめ、授業のまとめを行った。



おなじ 大きさの
ものでくらべる。

【終わりに】

量を測定するという事で、まず、具体物を使った操作活動を大切にしたい。その際には、ロイロノートの機能を活用して、色水の量を実際に測定する動画を撮影し、班ごとにコップの大きさが違うことに気付かせることができた。また、文字入力が十分にできない1年生も、教師が作成したカードを選ぶことで確かめ合うことができ、大型提示装置で共有することで、学習のまとめを行うことができた。今後は、2年生算数科「かさくらべ」での「普通の単位」の学習につなげていきたいと考えている。

☆教育委員会主幹講評☆ 算数・数学科の指導においては、具体を通して算数・数学の内容を確実に理解し、数学的に考える力を育成すること、日常生活や社会の複雑な事象の問題を解決するために、様々なデータを収集・整理・分析して、その結果を基に判断・表現できる力を育成することが求められています。その観点からもICTを効果的に活用することは重要であると言われております。今回は、1年生の「おおきさくらべ」の単元で、色水の量を実際に測定する動画を撮影し、班ごとにコップの大きさが違うことに気付かせたり、大型提示装置を活用し、学習内容を共有することで、学習のまとめを行うことで理解を深めることができた事例の紹介でした。今回のように、教師の丁寧な指導の下で、ICTを活用する場面を適切に選択することがICTの効果的な活用を進めていく上では、非常に重要となってきます。